

**第1回 足立区経済活性化会議 第四部会**  
**【議事要旨】**

**1) 日時・場所**

日時：平成29年6月12日（月）10時00分～12時00分

場所：足立区役所 南館12階 1205-B会議室

**2) 出席者**

有識者）中根部会員（部会長）、阿高部会員（副部会長）、岡田部会員  
事務局）足立区：島田課長、池田係長、鈴木主査

富士通総研：高橋、松田

**3) 次第**

■ 部会長、副部会長の選任

■ 審議事項

(1)次期 足立区地域経済活性化基本計画

**4) 配布資料**

資料1 部会員名簿

資料2 席次表

資料3 区民消費・産業実態に係るアンケート等調査報告書 概要版

資料4 区民消費・産業実態に係るアンケート等調査報告書

資料5 アンケート調査の分析結果

資料6 次期 足立区地域経済活性化基本計画の体系案

資料7 次期 足立区地域経済活性化基本計画の骨子案

※参考資料 現行の足立区地域経済活性化基本計画（冊子）

## 5) 議事録

### 【開会・挨拶】

島田課長より「平成 29 年度 第 1 回足立区経済活性化会議第四部会」開催に係る挨拶があった後、中根会長を部会長、阿高副会長を副部会長に選任することとなった。

次いで島田課長より配布資料の確認が行われた後、富士通総研 高橋より、約 30 分間、区民及び事業者を対象としたアンケート調査結果について説明が行われ、下記の通り意見交換が行われた。

### 【意見交換内容①】

阿高副部会長：各アンケート調査の返信率について、調査結果が足立区としての総意として反映されているか、お聞きしたい。

FRI 高橋：区民、ものづくり・IT 等、商業・サービス業のうち、ものづくり・IT 等は 30% を超えており、非常に高水準だと思われる。区民に関しては概ね平均的。また統計的な基準を満たしており、結果は足立区の総意になっていると言える。

中根部会長：まず区民アンケートについて、居住年数は 10 年以上が 6 割以上となっており、これが背景要因となって、居住の満足度等、他の結果に影響を与えている可能性があると考えられないか。また、ご指摘のあった商店街には、昔から商業機能に加えて社会的機能があった。祭りやイベント等の一過的なモノではなく、こうした商店街の社会的機能をどう考えていくかも今回重要なポイントだと思っている。

次いで、区民のうち協創タイプについては、居住地区に加えて、どのようなものを好み、どのような状況にあるのか等、詳細な（クロス集計等）分析もあれば良い。同じく人任せタイプについてもなぜ、協力的ではないのかといった要因分析が必要。

事業者については、ものづくり企業のサンプルが零細企業に寄っているということだが、そのことを踏まえたインプリケーションが必要だと感じた。また、なぜこうした零細企業の積極性がなく、淡泊な結果となっているかも知りたいところ。

商業・サービス業については、店主が一人で奥さんがそれを手伝っているというような小規模事業者を成長させていくことはやや困難な側面もあるため、空き店舗を活用し、若者を巻き込んでいくことが重要だと思った。足立区は学生も多く、経済効果に直接的に関係しないかもしれないが、PR 等の側面では非常に役に立つと思われる。

最後に卸売業に危機感が見られるが、電子商取引による中抜きが起こっており、その結果が見られるのではないかと思う。本来は製造業がモノを作っているということもあり力を持っていたが、価格形成力の面で、徐々に小売業に力が移

動していている趨勢もある。また、情報の非対称性が少なくなってきており、このあたりの危機感が卸売業に見られると思う。

今回の調査結果には記載がなかったが、いわゆるリーダー格・世話役となる人物像を持つておくことも大事だと思われる。

あとは、ヒアリング調査について、③、④、⑤の質問項目は重要だと思われる。

また方法についても、必要に応じ、デルファイ法を用いる等しても良い。

行政にお願いしたいのは、アンケート結果を解釈する前提として、ある程度 13 の地域毎の特徴を知りたいということ。13 地域毎の特徴を簡単に整理した資料をご準備いただければ助かる。

FRI 高橋 : 二次集計についてはこのコア部会で提供できればと思う。リーダーについては、規模が 20~49 名、経営者が 40 歳代の事業者が力を持っているため、これらの事業者がどこに集まって、どういう志向があるかも分析を進めていきたいと思う。また商店街の空き店舗を使い若者が起業するためには、まずイベントに若者を巻き込み、イベントで立場を作ってあげて飲み会を続けていくといった地道なやり方が必要。区内でモデルエリアを作っていくことも大事。

岡田部会員 : 区民の治安に対する不安が多いということだったが、特に若者の治安に対する不安はどのような層か気になる。

FRI 高橋 : 若い女性や子育て世代が数値を上げていると考えられる。

中根部会長 : 横浜には例えば売春宿があったが行政支援によって、今では芸術家が多く住む街となった事例がある。足立区全域でやる必要はないが、地域毎のプロファイルを見つつ対応していくことは可能だと思う。

他には青森市はコンパクトシティを推進している自治体だが、新町通りという大通りがあり、地元学生（特に女学生）による通行演出効果により賑わいが生まれた事例もある。こうしてみると足立区には大学も多くあり、学生や若者を活用することも可能なのではないか。

岡田部会員 : 通勤に関してみると勤務地が区内という人が多く、あまり流入してくる人は少ないという印象。足立区内から出ようとしていないという点はやや心配。

FRI 高橋 : 別途統計データ（国勢調査）から見た場合、千住地域周辺や西新井地域の新しい住民の方は都内への通勤が多くなっているが、逆に区内流入では埼玉県を主とし、他には葛飾区等からも多く来ていると想定される。区内で住んで区内で働いている傾向は他区と比べて多くこれは良いこと。

阿高副部会長 : 個人的に区内のものづくり企業と話していると、工場に関しては特に区内での操業環境に対する不満が多く、移転要望等を聞くことが多くあるが、アンケート結果の立地環境を見ると特にないが多くなっている。この理由は何かあるか。

FRI 高橋 : アンケート全体の傾向でもあるが、比較的零細の企業にご回答いただいたこと

も影響していると考えられる。

島田課長、池田係長より基本計画の体系案及び骨子案について説明があった後、下記の通り意見交換が行われた。

### 【意見交換内容②】

阿高副部会長：都市型農業のイメージについてお伺いしたい。

島田課長：農家については2022年問題もあり、生産緑地規制が外れることによる農地の宅地化が懸念されるが、区内の一部の農家ではブランド品や特産品の生産もあるため、そうした農家が継続して経営していけることを想定。

阿高副部会長：畑を見回りに行く労働コストを、センサーを使ってIT化する等した農業ではないのか。

FRI 高橋：補足すると、①農業のやり方（専業や兼業、週末での農家）を選べる、②農家が継続して生活できる、③区民が楽しめるという性質を含んだ概念となっている。

中根部会長：おっしゃられた③は重要なポイント。人を楽しませる農業は人気がある。

また、区内でやる気のある人物像として会社役員があったが、彼らはキャリアや能力があるため、どう活用していくかがポイント。企業をリタイアした人が子どものおもちゃ修理をする等の活動事例がある。リタイア人材の活用ということも今後は重要になってくると思う。例えば以前調査したことがあるが、東大阪市では、ナビゲーターという名称でパナソニックの退職人材をベンチャー企業で活用し、最も課題となる販路開拓の支援をしている事例もある。足立区でもこうしたことに取り組んでいくことは出来るのでは。

岡田部会員：今回のアンケートでは、高齢者が非常に元気でやる気があるといった結果が見られる。以前、区内で団塊世代の人による啓発活動としてお助け隊を組成してことがあるが、男性が続かないという印象。消費者問題に分野を限定せずに、きっかけ作りを設けて、キャリアの専門分野を活かすべきかもしれない。

また消費者トラブルは3割前後ということで、あまり高くはないが、高齢者は家に居るから消費者被害にあうと思う。行政による工夫で家から出て活動する企画があっても良い。元気になってもらうためにも、一か所に集まってもらったりする工夫も必要（クールシェア、クールシェルター等）。

阿高副部会長：企業人である男性は特にひきこもりになりがち。私の大学では65歳以上のノウハウを持つ退職OBを10人雇用し、中小企業と大学の知恵を結び合わせるコーディネーターとして活用しているが、皆さんいきいきと働いている。

中根部会長：有名な山田村では、慶應の学生が協力して住民にパソコンを与えたことがある。

しかし継続性がなくあまり効果が出なかったが、今は高齢者の情報リテラシーも上がっている。

FRI 高橋 : 今回の結果では、区民が必要に思うこととして、「居心地の良い場所」が比較的高くなっており、これは商店街を利用できるチャンスとなる可能性が考えられる。また一方で、ご高齢の方は医療機関やサービスに対するニーズが高くなっており、医療福祉産業にも元気があることも含め、IT の活用によって、商店街とも連携し、千住地域でモデル事業のようなものも考えられる。

中根部会長 : 高齢者が集まる場所としては図書館や公園が多い。一方、海外ではモールという場所がある。無料で雑誌を読める等の場となっており、一日中高齢者が集まっていたりする。日本ではそうした場に馴染みがないということもあり、商店街しかないと考えている。

岡田部会員 : 池袋で高齢者がやっている食堂はすごく人気があると聞いた。足立区の消費センターでは行事として年 1 回、子育て世代の母親等に向けて高齢者が料理指導をやっているが好評である。

また高齢者がパソコンを買っても使えないから解約するという内容も良く聞くと、販売する事業者は利用のフォローはしないため、そういった教えることのできる場所もあって良い。

中根部会長 : 骨子案について、調査分析から見えてきた課題と施策の方向性の結びつきがややわかりにくい。次回の活性化会議で委員がどれくらい理解して意見が出るか微妙なところ。

また、「企業のイノベーションの促進 (IoT、AI の導入支援等)」とあるが、前回の会議でもあった通り、区内の零細企業は AI や IoT にすぐ取り組めないのでは。質問があったときに回答が難しくないか。

池田係長 : おっしゃる通り確かに小規模零細が多く、IoT や AI の前に、IT、ICT 化も進んでおらず、経済センサス等の統計データで見ても労働生産性が低くなっている。こうした状況を踏まえ、まずは業務効率化等のための IT 技術の導入支援といった可能性もあると考えている。

阿高副部会長 : AI と IoT といってもパツとしないが、将来的な導入は必須だと思う。工場を持たない製造業もありうる。

FRI 高橋 : 補足すると、上段の地域経済を支える産業の振興の部分については、既存産業の維持強化、二つ目の起業支援と事業者の経営力強化は起業や熱心な企業に対する支援を想定している。

池田係長 : 区内には、今野製作所という工場の IoT 化に取り組んでいる企業もある。もちろんすぐに導入できたわけではなく、数年間業務改革を行い、一部システム導入をしたり、5 年から 6 年かけて他の企業とつながることが出来たと聞いている。区内の他事業者にこれからどう意識づけをしていくかも重要だと考えて

いる。

中根部会長：それでは、次回の経済活性化会議に向けて、これまで出た意見を可能な限り資料に反映していただければと思う。

島田課長より挨拶があり、閉会。

以上